



# 特集

## 卒・退寮生からの

### メッセージ

学生会館で過ごした六年間

菊地翔太



私は六年制の大学に通っていたこともあり、通常より二年長い計六年間学生会館でお世話になりました。つまり人生の四分の一を過ごしたことになります。第二の故郷と言っても過言ではありません。その間、会館のすべての関係者の方々にお世話になり時にはご迷惑をかけてしまうこともありました。いつ

でも暖かく対応していただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

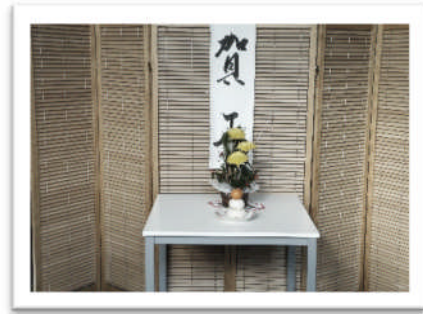
学生会館の魅力といえば、朝夕と食事が出ることと大きな浴槽があることです。食事は栄養バランスもよく、おかわりもできます。また、ひとり暮らしでは水道代を気にしてシャワーだけになりがちですが、学生会館ではそれを気にすることなく大きな湯船につかることができるのは、部活やバイトで疲れた体にはとてもありがたいことだと思います。

このように学生会館は学生生活をサポートするすべての条件が揃っており、安心して様々な活動にチャレンジすることが可能になります。一度きりの大学生活です。この最高の環境で自分の可能性を試してみてください。

村上 樹

長いようで短い四年間でした。学生会館は食事や館内の環境がとても良く、自分の大学に近いこともあり、勉学やサークル活動などを集中して行うことができました。また、何かあった時に頼れる人がいるというのは心強いものでした。

寮長さんをはじめとして、多くの人に迷惑をかけてしまいました。ひとり暮らしになっても規則的な生活を送れるように頑張っていました。ありがとうございます。



箱山 賢也

東京に上京して、この会館に入寮しては二年が経ちました。

この会館に入寮して共同生活の大切さを学ぶことができました。その中で、規則を破ったり、他人の迷惑になる行為をしてしまったこともあります。

これから生きていく上で大事な事やそうでないことの区別を周りにとっても教えてもらったと思います。これらを活かしてもっとまっすぐ一人の大人として誰が見ても、あの

人はすごいと言われるような大人になりました。と思いました。

最後に、二年間たくさんの方があり、寮を出ていかざるを得ないという決断を求められたりしながらこうして二年間住ませて頂き本当にありがとうございます。

藤田 吉裕

私はこの寮に四年間お世話になりました。食事、お風呂、清掃などあらゆる面で多くの人に支えてもらい、とても快適な生活を送ることができました。また、同期の仲間だけではなく、入寮時からお世話になった先輩やいつも気にかけてくれていた後輩などたくさんの方に会い、つながりを持ってたことに私は誇りを感じます。この仲間との出会いがあったからこそ、楽しい寮生活を送れたと思います。今後、社会人になるに当たり自立をしますが、この岩手県学生会館で過ごした四年間を忘れずに暮らしていきたいです。最後に色々迷惑をかけてしまいました。(笑)

今まで本当にありがとうございます。

「大学での四年間と学生会館」

町屋 秀憲

四年前の三月、上京するために盛岡から秋田に向かいました。東北新幹線が復旧していなかったためです。半日かけて着いたのは、文字通り普段より暗い東京でした。そんな中でも同郷の人がいる学生会館は落ち着くことのできる場所でした。そんなこんなで一年目は大学と学生会館の往復だけのような静かな生活をしていました。

二年目にはとくに街に活気が戻り、少しは外に出ようと、あるシラバスが全部英語で書かれた科目を受講してみることになりました。これはマサチューセッツ工科大学(MIT)の同年代の学生が日本に来てグループ毎に与えられたテーマについてプレゼンテーションをしあうというもので、夏休みには逆にMITを訪問するという貴重な体験もさせていただきました。

四年目、卒業論文に向けて研究室と学生会館の往復の一年でした。こんな毎日でも朝食・夕食の心配をする必要がないという点は心強かったです。

今後は大学院で同じ研究テーマを続けます。食事の心配をする必要が出てしまうのは事実ですが、寮の時間に合わせて研究を進め

るといふより自分にあつたペースであと二年頑張りたいと思います。これまで四年間お世話になりました。

日々を思い返して

北館 彩花

まず、寮生活にあたって多くの管理者の方にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

一年間という短い期間ではありませんが、館長さんや寮母さんにはとてもお世話になりました。本当にありがとうございます。入寮当初の緊張もすぐにほぐれるような歓迎会を、今でも鮮やかに思い出すことができます。

また、寮生活を楽しく充実させてくれた友人たちにはとても感謝しています。住む場所は違えど、いつかまた一緒に食事し、談笑できればと思います。

最後になりますが、寮生活で送った日々は私の中では本当に楽しく、かけがえのないものでした。そのような環境を与えてくださった方々に感謝しています。本当に、ありがとうございます。

もし一年タイムスリップでもどれたら

西村 隆太郎

高校生の頃、母校の先輩から大学の話を聞けば、まずは自由、次いで楽という答えが多かった気がする。自分は塾でバイトをしているが、生徒に大学に行きたいと思わせるために同じ様なことを言う。

しかし、先輩方は肝心なことを言っていないのではなからうか。少なくとも私は生徒に本音を言っていない。大学生生活の自由の裏には必ず付いてくる不安がある。それは人それぞれであるが、おそらく多くの人が抱えている、というより抱えるべきものがあると思う。大学では何を得られるのか、ということだ。卒業するときに中身が高三のままその大学のラベルを貼ってもらったところでのただのポンコツであろう。高校までの知識(特に普通科)など先生以外役立たずだ。東京に出てきたあなたに伝えたい事は唯一つ。大学生活は楽しいから楽しもうとしなくても大丈夫。知識、技術、人脈、何でも良いから大学の利点を生かした自分磨きを4年間忘れるべからず。

と、上から目線でズバツと言つて、浮ついた気持ちと勘違いに溺れる心を適度にぶつ

こわしたい。

四十歳、東京での学習生活

君成田 大

私は、認定看護師教育課程の大学に六ヶ月間の学習のために入学し、岩手県学生会館に入寮させていただきました。

四十歳という年齢で学習できることはとても幸せでした。この教育課程は、他の大学では一年間を要するカリキュラム構成ですが、今回は六ヶ月という期間の大学だったため、内容は凝縮され日々の学習や課題に迫られました。特に睡眠時間は四〜二時間程度の毎日でした。四十歳でこの睡眠時間での生活はかなりきつく、二十四時間を無駄なく使うことに苦慮しましたが、食事や入浴、洗濯で苦労することのない岩手県学生会館の環境は本当に有益でした。職員の方々は、いつも笑顔で接していただき、六ヶ月という短い東京生活に慣れることもままならない私に、常に気遣つて声をかけていただきました。学生の皆さんも、やはり岩手県民だなと感じる物の柔らかさで、安心でした。

この環境を体験し、自分の子供が大学に入学する時にも、岩手県学生会館を希望したい

と心から思いました。

ただ、ほんの数人の学生の乱れが、他の素晴らしい学生へ迷惑をかけていたことが残念でした。自分自身も二十年前のことを考えると、偉そうには言えませんが、集団生活をする上で、人に迷惑を掛けないようにすることが大切だと思います。今後のためにも、「他人の物や共同スペースの物は絶対盗まない」「お風呂に入る時には、必ず体を洗ってから入る」「洗濯機を使ったら、置きっぱなしにしない」「部屋では絶対タバコを吸わない」「夜は騒がない」等の生活上のマナーを守っていくことを後輩たちに告ぐ言葉として残していきたいと考えます。

長くなりましたがこの六ヶ月間は今後の認定看護師の活動において基礎となり、私の人生の中で、忘れられない時間です。自分の周りで、学生がいる場合には、この岩手県学生会館を勧めたいと思います。本当にありがとうございました。

これから

高橋 福美

長いようで短かった二年間も終わり、また一からの生活が始まるのだと思うと不安で



ありがとう

いっぱいです。楽しい思い出がたくさん詰まった寮を出るのは寂しいですが、新しい場所でも頑張ります。二年間ありがとうございました。

大林 麻祐

岩手から上京し、初めて学生会館に来た日のことを今でも覚えています。私が、一年生の頃は、日曜日はお風呂に入らず、近くの銭湯に行き、夜には南京錠が玄関にかけられていました。その頃と比べると今の環境はとても幸せだなと思います。親元を離れても自由なく暮らせていたのは支えてくださった学生会館の皆さんのおかげだと感謝しています。今まで本当にありがとうございました。そして同郷の仲間というのは本当に心強く、助けられたことが多くありました。一人暮らしをしていたら、出会えなかったと思うし、たくさん楽しい思い出はなかったと思います。暮らすところは違いますが、なってしまうけど、会えなくなるわけではないので、

これからもたくさん思い出を作っていくと思います。今までありがとう。そして、これからもよろしくね。

藤澤 千裕

私が大学に入学した年はちょうど、東日本大震災のあった年でした。上京出来るのかどうかすら分からず、不安でたまりませんでした。ようやく上京出来てからも、余震への不安や、初めての一人暮らし、大学生活等と不安は尽きませんでした。ですが、この岩手県学生会館に入寮して、多くの友人にめぐまれたため、安心して過ごすことが出来ました。大学だと、同じ分野の勉強をしている人としかなかなか話す機会がなかったのですが、この寮には、様々な大学、学部の人々が居たので、自分が知らない事についてたくさん学ぶことが出来ました。この寮に入寮したことで、様々な人から沢山刺激を受けます。それが出来たと思います。そして最後になりましたが、館長さん



と寮母さん、事務の樺沢さんには大変お世話になりました。見かける度に声を掛けて頂き、身の辺りの事をフォローして頂きました。本当にありがとうございました。

岩手県学生会館で過ごした日々

菊地 恵里花

私は一年生から四年間、この寮にお世話になりました。入寮当初は友達が出来るか心配でしたが、気がついたら沢山友達が出来ていました。私達の学年の女子は特に仲が良く、食堂やお風呂で会ったらずっと話していたり、一緒に遊びに行ったり、飲みに行ったりと、学校から帰ってきて寮で過ごす時に寂しいと思ったことは一度もありませんでした。また、今の館長さんや寮母さんには、風邪を引いた時や足をケガした時に本当にお世話になりました。感謝しきれません。

この四年間とても楽しかったです。寮に入って良かったと思います。今までありがとうございました。

兼田 季里子  
私には「岩手県学生会館」という帰る場所

が在ったから、大学生活を楽しく過ごせたのです。出身地が同じというだけで、価値観も趣味も何もかも違う私たちは、たまにぶつかり合うこともありました。相談してかえってくる答えはみんなバラバラ。そして、その答えが違うからといって仲が悪くなることはなく、かえって本音を言い合い、違いを見つければ見つけるほど親しくなっていきました。四年間はこのようにして毎日過ごし、「今更隠すことなんてないよね」と笑いながら言い合える友人と巡り合えたことに本当に感謝しています。

価値観の違う人間が同じ場所で過ごしていくには、誰かが何かを我慢する必要があります。わたしのために誰かが何かを我慢し、そしてわたしも誰かのために何かを我慢し



ていたのだと思います。しかしそのような我慢は生きていく上で当たり前の気遣いであり、礼儀なのだと思ってきました。そして体に染みこんだこの礼儀は、これからも私の人生で役に立つのでしょうか。この寮に入ってから良かったです。ありがとうございました。

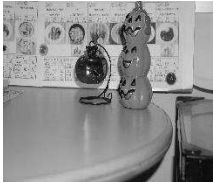
岩手県学生会館での二年間

鈴木 優樹

高校に入学した時から東京のとある大学に入学したいと考えていました。しかし、初めての東京であるのとこれから一人ですべてをこなしていくということに非常に不安感がありました。私が思う都会のイメージは危険で、五月蠅いというものでいいものではありませんでした。その意思を親に伝えたところ岩手県学生会館への入館を勧められました。入寮するには面接が必要ということでした。私はきちんと人を選んで入館させているということでした。そして、四月になって岩手県学生会館に住み始めました。最初に不安だった都会は危険で五月蠅いというイメージは会館の近くでは感じることはありませんでした。近くに小学校があり、周りは閑静な住宅街でも静かでした。ま

た、会館の玄関はオートロック式で鍵に埋め込まれているICチップをかざして入るもので簡単に開くことができず安全だと感じました。初めての東京は分からないことだらけで電車の乗りかたもあまりわからなく全く知らない環境ということで普通に過ごしているだけでも非常に疲れました。この状況でご飯を作ったりゴミを出しにいたりすることはとてもではありませんができませんでした。会館に帰ればご飯があり好きな時間にお風呂に入れるというのは精神的に楽でした。洗濯も二十四時間好きな時間に行えるし乾燥機もついていたので急ぎで服を洗って着たかったときはとても楽でした。お風呂やトイレは共用ですがお掃除の方がほとんど毎日きれいにしていたおかげで快適に利用できました。心配していたゴキブリなどの害虫も一回も見ることはありませんでした。

入館して二年もたてば東京にもすっかり慣れ生活にも余裕ができてきました。初めての東京に慣れるまでの足掛かりとして岩手県学生会館はとてよよいものでした。



大学生活を振り返って」

渡邊 真有

大学生生活を振り返ると、四年間は長いようで短いものであったと感じます。

私は、東日本大震災で実家が全壊。多くの知り合いや友人を亡くしました。そんな状態の中、寮で始めた新生活は、私にとって心強いものでした。友人にも恵まれ、先輩や後輩にも良くしていただき、楽しく過ごすことができましたと思います。

寮生活の中でも特に印象に残っている出来事は、アメリカ大使館で大使やアメリカの学生達と東日本大震災について話し合ったことです。この経験は、これからも役に立っていくと思います。多くの出会いに感謝し、大切にしていきたいと思えた四年間でした。

大学生活を過ごす上でより良い環境を作っていたいただいた館長さんを始めとする寮の皆さま、共に過ごした友人達、そして支えてくれた両親に、深く感謝します。本当にありがとうございました。

佐藤優真

私がこの学生会館に入って良かったと思うことは、生活の快適さです。一人暮らしを

すると気がつくことですが、風呂やトイレ掃除、自炊は意外と面倒です。その点、こちらの学生会館ではそういったことの面倒を見てもらえます。そのため、そこに費やす時間を勉強や余暇に当てることが出来ます。また、池袋から徒歩圏内という立地も魅力です。その割には夜は静かで、とても住みやすい場所だと思っています。

また、交遊が広げられることは特に学生会館ならではの魅力だと考えています。同じ岩手県出身の他大学の友人が得られたことは大きな経験になったと考えています。そういった出会いを学生会館を出た後も大事にしていきたいと考えています。

新入生の皆さんは始めて親元を離れる方がほとんどでしょうから、不安なことも多いと思います。でも、そんなときは館長さんや寮母さんを頼ってみてください。きっと優しく相談に乗ってくださるはずです。



## 会社説明会開催

平成28年度採用予定の就職活動がこの3月から解禁となりました。現3年生(4月から4年生)の寮生諸君も装いも新たに就職活動に励むこととなります。昨今、今までになく売り手市場とのことで、第三者から見れば安心感が漂っているのだらうと思っていました。が豈図らんや、学生の皆さんは真剣そのものようです。やはり、自分の一生がかかった決戦の時であるだけに自分の希望する道を求め、自分の力を生かす(社会に大いに貢献せんとする)道を求めて、より高みを求めているような意気込みが感じられます。



さて、そういう中で会館始まって以来でし

うか、2月末に会館内で会社(企業)説明会を開催しました。これは毎年、寮生を複数採用し

ていただいている岩手銀行さんからの有難い申し出によるものです。当初は、いつもの学生の反応の鈍さから、参加者の数が危ぶまれましたが、「一名でも結構です」とのお言葉に安心して開催を決めました。参加はもちろん自由で、3年生に限らずだれでもOKでしたが全部で8名の参加が見られました。3年生はほぼ全員、他に2年生が1名参加しました。また、1年前まで在寮していた方も特別参加しました。ただ、中にはビシツときめたリクルースタイルの3年生に気おくれしてか、普段着で来た1、2年生が戻ってしまう場面もありました。

説明会はスライドを使って金融の話、岩手銀行の話、社会人についてなど多岐にわたっておりました。学生の方からの質問なども出、充実したものだっただけではないでしょうか。最後に参加者の自己紹介をし、初めての試みは無事終了いたしました。

なお、岩手銀行東京営業部の歴代の部長さんには当公益法人岩手県学生援護会の評議員を務めていただいております。

その後、盛岡にあるシグマソリューションズさんからも同様の申し出があり説明会を開催



しましたが、こちらの参加者は少数で、少し寂しい思いをいたしました。

また、説明会ではありませんでした。寮の近くにあるオムテックという会社からも採用案内の文書を掲示もしくは配布してほしいという申し出がありました。その社長さんが岩手の岩谷堂のご出身という縁で申し込まれたようです。

今後、同様の企画を可能な限り開催したいとは思いますが、学生の皆さんの希望を聞いて決めていきたいと思えます。

## 会館からの連絡

### ○水道料金について

新年度から光熱水費の料金は電気代のみとなり、徴収しないこととします。これは検針メーターの交換工事に多額の費用が掛かることからです。もちろん会館全体としては従前どおり水道代は発生しますので、無料になったからといって無駄な使用はしないよう気を配ってください。

### ○居室の整理整頓について

居室は各自の責任で整理整頓を心がけてください。ペットボトルやペーパーの散乱が目につきます。寝るスペースもないかのような乱雑さです。身だしなみだけ整えてもこの状態では心がついていきません。居住空間の居心地の良さを自ら作り出してください。少なくとも週に一度は掃除をし、天気の良い日は換気をしてください。カビ、害虫予防にもつながります。

### ○下足箱、レターケースの整理について

皆さんがお使いになっている下足箱の乱雑さが目につきます。上段部分のレターケースがほぼ使用不能状態です。その原因は靴を無理やりあの小さな下足箱に突っ込んでいるからです。下足箱には上履きと帰ってきた時の下足のみを入れることにし、その他は各人の部屋で管

理してください。面倒くさがらずに所有物の管理は自分でするように心がけてください。特に就活をしている方にはおびただしい数の郵便物等が届きます。ぜひご協力ください。

### ○浴室の利用について

風呂の使用時間がルーズになっています。特に朝の使用は八時までとなっておりますので厳守すること。また、浴槽の利用時間はろ過機の稼働時間十七時から二十三時までを厳守すること。深夜の稼働は減菌、水質保持のためのもので、決して浴槽には入らないでください。せっかく新しいろ過機に交換したのに特に男子の浴槽の汚れが目立つようです。気を付けてください。

### ◎新年度に向けて

4月になると新しい入寮生が続々入ってきます。在寮生の皆さんは次の点に十分留意され、新入寮生の模範となるよう心掛けてください。

- ・同じ岩手県人です。明るく、あいさつで一日を始めましょう
- ・会館の売りは清潔さです。居室前には靴、ゴミなど私物を置かないこと。また、必ず上履きを使用し、裸足では歩かないこと。
- ・居室は常に清潔にし、少なくとも週一回の清掃を心がけること
- ・門限があります。無断で破った人には警告書

をだします。届け出を励行すること。

・外部の方を居室には入れないこと。

・ドアの開閉は丁寧なことにすること。

・光熱水費が高騰しています。こまめに消灯し、エアコンのつけっぱなし等に注意すること。

・学習室の整理整頓に気を配ること。

・下足、傘、浴場の衣類等の紛失に注意すること。

と。

### 【編集後記】

長い方で6年、短い方で1年という在寮期間でしたが、28名の方がそれぞれの思いを抱いて次のステージへと旅立っていきました。原稿ありがとうございました。退寮生の皆さんの今後のご活躍、ご多幸をお祈りいたします。

さて、在寮生の皆さん、この一年が経つのは早かったのではないのでしょうか。同じ轍は踏まないとの心意気で、新年度、新たに希望に燃えて、目標に向かって頑張ってください。

平成二七年四月十三日発行

編集並びに発行元

公益財団法人岩手県学生援護会

岩手県学生会館

同 学生会自治会

住所 東京都豊島区要町二丁目5番5号

tel 03 (3972) 4783

fax 03 (6676) 4471